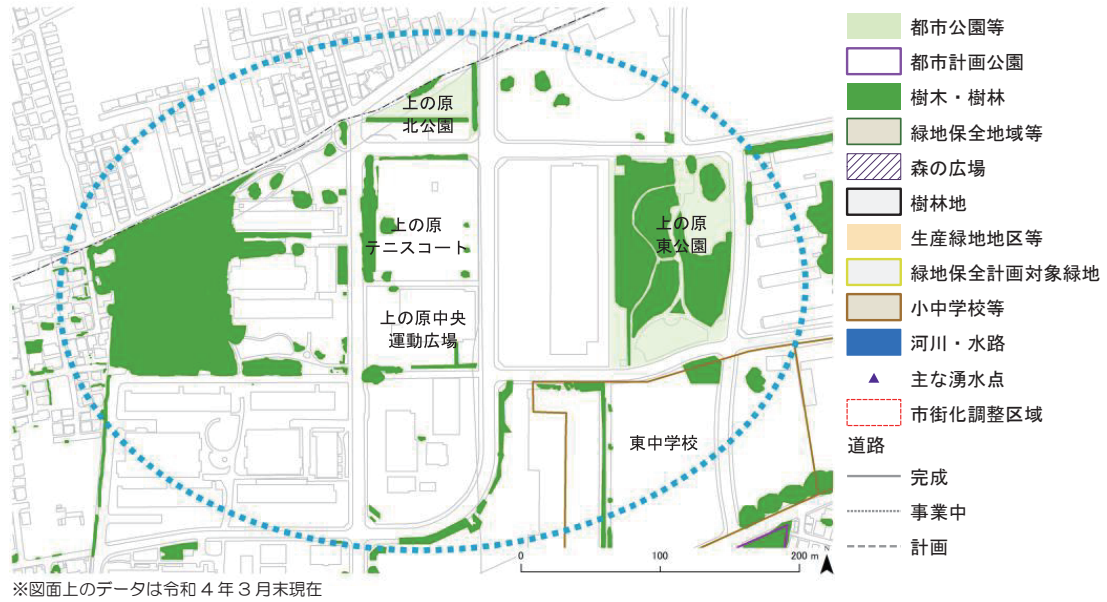




⑨ 上の原

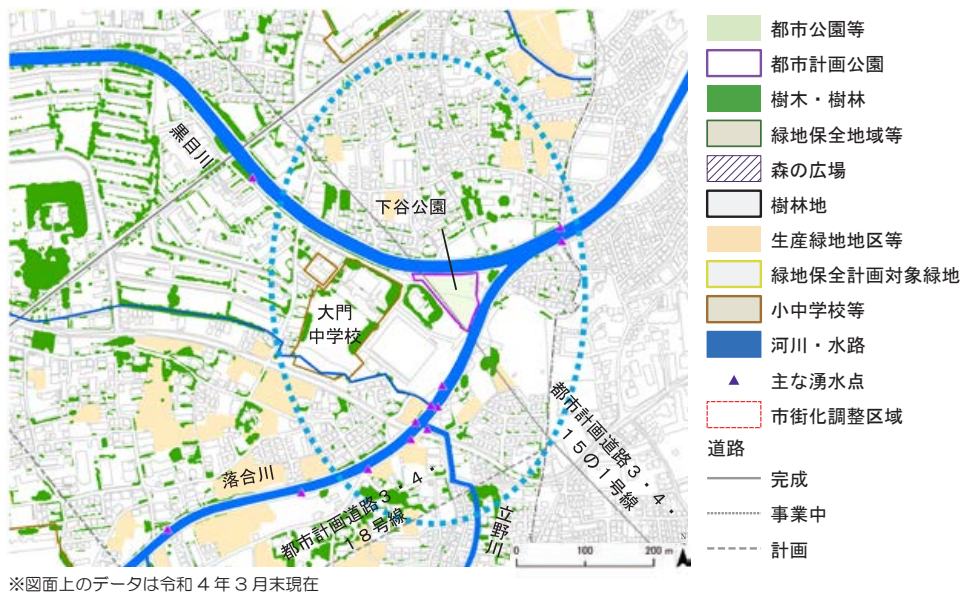
この地域は、スポーツ施設の中央運動広場とテニスコート、公園施設は上の原東公園と上の原北公園があります。上の原東公園は、既存の樹林地を活かして再整備を行い、園内を「遊び場エリア」と「散策エリア」に分けた子どもも大人も楽しめる公園として、令和元年10月に再開園しました。



⑩ 黒目川・落合川合流点

地下に黒目川と落合川から取水する黒目川黒目橋調節池があります。また、地上にスポーツセンターや下谷公園、黒目川・落合川の合流点があり、「東京における都市計画道路の整備方針」で優先整備路線とした都市計画道路東3・4・15の1号線の整備が進められています。治水事業としての、黒目川黒目橋調節池工事が平成30年に完了し、現在下谷橋調節池の工事が実施されています。また、合流点ではアユの遡上も見られます。

下谷公園を含め、周辺施設と一体性を持った市民に親しまれるオープンスペースづくりを検討していきます。下谷橋調節池の工事にあたっては、自然環境等に最大限配慮した施工を行うよう東京都に働きかけていきます。



第3章
第三次緑の基本計画
生物多様性戦略

⑪ 竹林公園

新東京百景でもある竹林公園は、約2,000本の孟宗竹に覆われた市のシンボリックな公園であると同時に豊富な湧水地でもありその流れは落合川に注ぎます。公園の周辺に広がる農地と屋敷林が市内の貴重な緑です。「落合川いこいの水辺」は、緩傾斜護岸により整備された広場で子ども達の体験の場、多くの市民の憩いの場になっています。都市計画道路東3・4・18号線の整備にあたっては、竹林公園周辺の一部区間を自然環境を守ることを前提とした区間とし、その環境を守ることでできる整備のあり方が明らかになるまで、当該箇所の整備を留保し、実現性や変更等、都市計画道路のあり方について検討します。また、落合川を横断する東3・4・13号線の整備にあたっては、周辺の自然環境に配慮した整備を進めます。竹林公園や落合川いこいの水辺は、今後も市民に親しまれる場所として維持・管理を行っていきます。



※図面上のデータは令和4年3月末現在

⑫ 落合川源流域

落合川と小金井街道の交差点より西側の八幡町二・三丁目周辺は、落合川と楊柳川の源流域として、河川の保全のための重要なエリアです。落合川の川面には、ギンヤンマやハグロトンボも見られます。

落合川源流域の流れを絶やさないう、地下水のかん養量の確保に努めます。また、川の源泉としての重要性を多くの市民に広めていきます。



※図面上のデータは令和4年3月末現在



⑬ 学園町

この地域においては、「学園町憲章」により、自治会による地域緑化が進められ緑豊かなまちなみが形成されています。また、市内では珍しいメタセコイアの大木も保存樹木として指定されています。

自由学園の敷地内には立野川が流れ、崖線を含む多様な緑に恵まれています。また、開放日には多くの市民が訪れ、学園内の生きもの調査や、市民も交えた鳥の観察会も継続して行われており、今後も自由学園や自治会と一体となって、広がりや厚みのある緑の形成を図っていきます。

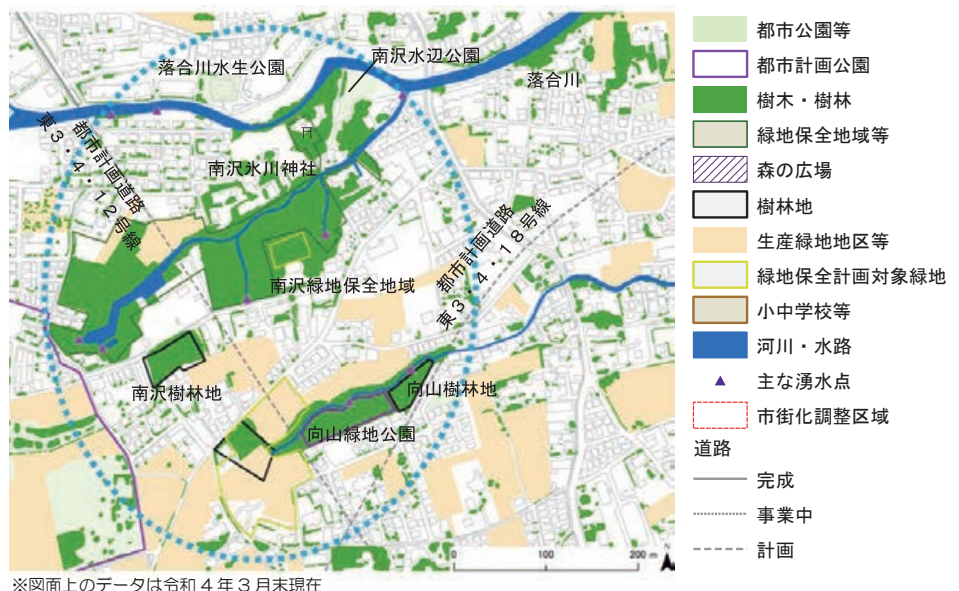


⑭ 南沢

平成の名水百選「落合川と南沢湧水群」に指定された地域で、南沢緑地保全地域では1日約1万トンの湧水が湧出します。周囲には南沢氷川神社、南沢水辺公園や向山緑地公園、市民緑地や南沢樹林地、向山樹林地、民有の樹林地もあり、市のシンボリックな緑地帯を形成しています。

湧水・清流保全都市宣言をしたまちとして、将来にわたりこの地域の良好な自然環境を引き継いでいきます。また、立野川上流域の水辺環境と縁崖林を保全していくとともに、都市計画道路東3・4・12号線の整備にあたっては、南沢緑地保全地域周辺の一部区間を自然環境を守ることを前提とした区間とし、その環境を守ることでできる整備のあり方が明らかになるまで整備を留保し、実現性や変更等、都市計画道路のあり方について検討します。また、都市計画道路東3・4・18号線のうち、立野川を横断する箇所の整備にあたっては、周辺的生活環境や自然環境に配慮します。

さらに、都立六仙公園への連続性を持った緑地保全地域のあり方を検討します。向山緑地公園周辺については、「東久留米市緑地保全計画」における保全対象地であるとともに、「緑確保の総合的な方針(改定)」において確保候補地となっていることから、隣接地の公有地化を行い、拡幅を行いました。



⑮ 六仙公園

東京都と都内区市町で策定された「都市計画公園・緑地の整備方針」において、「今後10年間で優先的に整備する公園・緑地」として都立六仙公園の整備を進めています。この公園は、市内で最大の計画面積(15ha)があり、市の原風景である雑木林、縄文時代の遺跡などをイメージし、自然の保全と創造をする自然型の公園とするとともに指定緊急避難場所としての機能を持ち、隣接する南沢の湧水のかん養域となるよう計画されております。

都立六仙公園を水と緑と生きものの拠点として、早期の全面開園に協力していきます。この施設を有効に活用できるよう様々な環境整備を検討し、東京都と調整していきます。

また、南沢地域との連続性の持ち方を検討していきます。



※図面上のデータは令和4年3月末現在

⑯ 前沢・南町

前沢・南町の緑地保全地域を中心に、森の広場と江戸時代の新田開発の名残を示す、市内最大のまとまりのある農地と、これと一体となった屋敷林、柳新田通りのケヤキ並木が立ち並び、武蔵野の面影が感じられる地域です。雑木林においてアオゲラなどが木を突く音も聞こえます。

緑地保全地域や森の広場における緑の適切な維持管理を行います。また、屋敷林や広大な農地の保全を広く市民に呼び掛けるとともに、所有者とも共同で検討し、実施していきます。

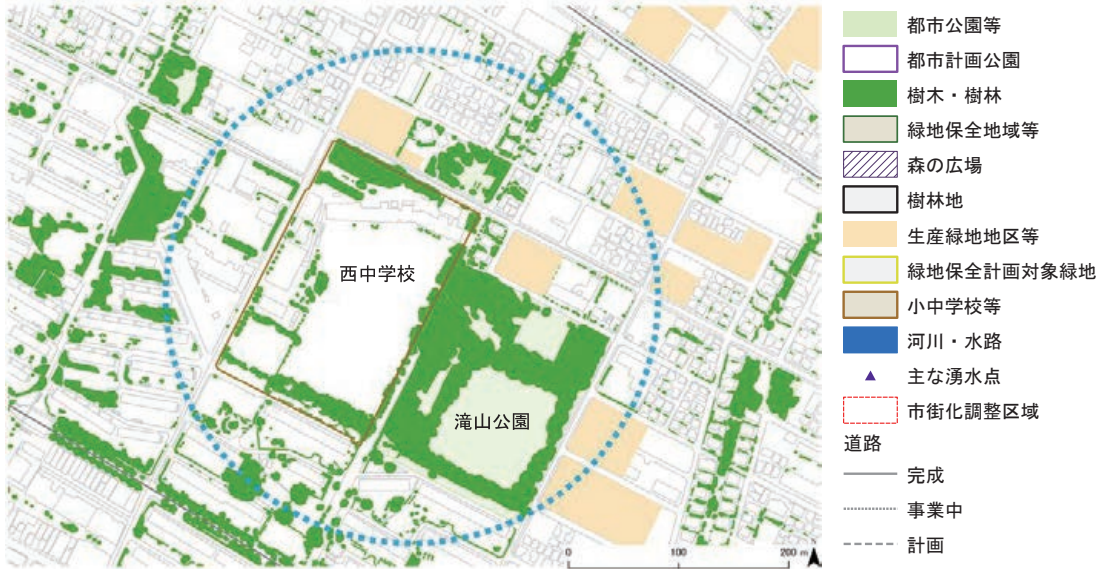


※図面上のデータは令和4年3月末現在



⑰ 滝山公園

西中学校と一体となって、市内の緑の拠点を形成しています。野球場やテニスコート、野外訓練施設といったスポーツ・レクリエーションの場として、また、指定緊急避難場所として災害時にも重要な地域です。公園北側の慰霊碑等周辺にはまとまった緑が多く残っていますが、高木・老木化による枝折れや落葉が課題となっています。今後は、公園の防災機能の充実を含め、よりストック効果を高める施策等の検討を進めていきます。



※図面上のデータは令和4年3月末現在

⑱ 白山公園

雨水の調整池として整備されている白山公園は、散歩やスポーツを楽しむ場となり、桜並木は花見の名所になるなど、広く市民に親しまれています。雨が降ると湿地になるため湿生植物も生育しており、そこにはアオサギやカルガモなどもやってきます。

これらの環境を保全するため、湧水や調整池機能など水環境に配慮した維持管理を行うとともに、多くの市民に親しまれるよう公園全体の老朽化対策について検討を進めていきます。



※図面上のデータは令和4年3月末現在

コラム7

多摩川から続く川の道を 辿って来た植物について

東久留米市の北は、野火止用水と呼ばれる用水路で東村山市や清瀬市などと境を隔てています。それらは、1655年武蔵野開発のために作られた玉川上水からの分水路です。流域には山地性植物のタマアジサイ〔注1〕や、コバギボウシ、オオバギボウシ、チゴユリが生育しています。当市は平野部に位置しており、同用水の開削が深く関わっていると考えられます。

何らかの要因により種子や株などが生育地近辺の水辺に流れ込み、沢筋から多摩川へ、更に流れに乗り羽村取水堰から玉川上水を経て当市に辿り着き、野火止用水沿いにそれらの植物が生育できる環境があったため、生育してきたと考えられます。

丘陵地、山地の在来種であり、人工水路が起因した帰化種と言っても過言ではありません。しかしながら、川の道を辿り当市に定着した大変貴重な植物です。これからも大切に保護していきましょう。

〔注1〕：タマアジサイは山地の沢沿いなどに群生する事が多い。当市での開花はアジサイなどよりひと月ほど遅く8月上旬頃。蕾は頭頂部に一つ付けて3cmほどに生長するとクスダマが割れるようにして開花する。



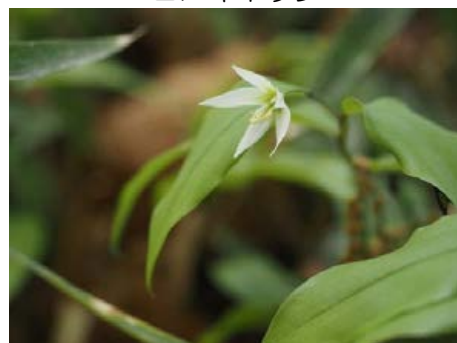
タマアジサイ



コバギボウシ



オオバギボウシ



チゴユリ